

喜多流狩野了一能の会

第一回 きみ会 Ki no Kai

能 砧

狩野了一

おはなし 山中玲子



この砧の
聲流へて
君がそなたに
吹けや風

◆ 2019年6月22日(土)

午後3時 開演 (午後2時 開場)

◆ 銚仙会能楽研修所

東京都港区南青山4-21-29 Tel 03-3401-2285

番組

おはなし 山中 玲子

休憩 十五分

シテツレ(多務) 佐々木多門

後シテ(前岡人の妻) 狩野 了一
前シテ(芝屋某の妻)

能 砧 ワキ(芝屋某) 大日方 寛

ワキツレ(後者) 御厨 誠吾

アイ(下人) 高澤 祐介

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 小寺真佐人

小鼓 曾和 正博 笛 松田 弘之

後見 塩津 哲生
中村 邦生

地謡 狩野 祐一 大鳥 輝久
塩津 圭介 金子敬一郎
友枝 真也 長島 茂
佐藤 陽 内田 成信

終演予定 五時半頃

あらすじ

九州菅屋の某(なながし)は訴訟のため都に上り、や三年が過ぎ、留守を預かる妻は不安な日々を過ごして、都より侍女の夕霧が戻り、暮には戻るといふ某の言葉を伝えますが、夫を待つ辛さから夕霧をなじり、夫を恨み泣き悲しむのでした。更け行く秋の夜、遠くから響いてくる砧を打つ音、唐土の蘇武の故事にならい、夫の元に自分の思いが届くようにと砧を打ちます。しかし、今年も帰れないという悲しい知らせが届き、夫の心変わり、妻は病に伏せて静かに息を引き取ります。帰国した夫が弔いをしていると、妻の亡霊が現れ、恋慕の罪ゆえ地獄に沈んだ苦しみを訴え夫の不実を恨みますが、やがて法華経の功德により成仏するのです。

※上演中のビデオ撮影・録音・写真撮影は固くお断りいたします。携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。その他の音のなる機器のご使用は控えさせていただきます。

山中 玲子 (やまなか れいこ)

法政大学能楽研究所(教授、所長)。1957年生。著書に『能の演出その形成と変容』、共著書に『能楽囃子方五十年 亀井忠雄聞書』『能を面白く見せる工夫 小書演出の歴史と諸相』『人生をひもとく日本の古典』シリーズなど。

狩野 了一 (かのりょういち)

シテ方 喜多流 職分。1967年生。故狩野秀鵬の長男。仕舞「老松」にて初舞台(3歳)。喜多流15世家喜多実入門。塩津哲生に師事。「狸々乱」、「道成寺」、「石橋」、「翁」等を披露。重要無形文化財総合認定。日本能楽会、能楽協会会員。

【まの会】命名の記

一調二機 三声。
一念発起。

狂言 綺語のこの世界に
気をもって軌跡を重ね
いつか喜びの

大樹に辿り着くまで。

【会場案内図】



鎌仙会能楽研修所
東京都港区南青山4-2-129
TEL 03-3401-2285

◆ 入場料
全席自由席
一般 ¥5,000 学生 ¥2,000

◆ 問い合わせ
Tel : 090-2312-9499 (狩野)
Fax : 03-3301-9788 (狩野)
Mail : ryol_kano@mac.com